

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 高蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

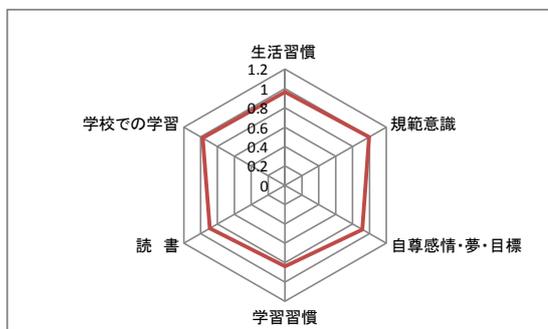
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度より上昇していた。書く力を問う問題に課題があり、書く事を習慣化する必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて図と表を関連付けて読む問題については、正答率が全国平均より高かった。	
	努力が必要な問題	漢字やローマ字を正しく書く問題や、目的や意図に応じて書く事柄を整理する問題は正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っているが、無回答率が昨年度に比べ低くなっている。話す・聞く能力や書く能力に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じてグラフを基に自分の考えを書く問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫する問題は正答率が低かった。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っており、基礎的・基本的な学習問題の定着に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	繰り下がりのある減法の計算は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	割合の問題や分数の乗法の問題は、正答率が低かった。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を下回っているが、無回答率は昨年度に比べかなり低くなっており、粘り強く取り組むことができるようになった。数量関係や図形についての問題に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	示された四角形を並べてできる図形を選ぶ問題は、正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	示された事柄について、二つの表を基に読み取る問題については、正答率が低かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ等の接触時間は減っているが、テレビゲームやスマホ・携帯を使ったゲームに2時間以上接触している児童の割合は増えている。</li> <li>・学校のきまりを守っているという児童の割合が高く、規範意識は高い。</li> <li>・自分にはよいところがあると答えた児童の割合は低く、自尊感情が低い傾向にある。</li> <li>・将来の夢や希望をもっている児童の割合は、全国平均より高い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせる必要がある。</li> <li>・読書が好きと答えた児童が増えているが、好きではないと答える児童も多い。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・ 毎週水曜日の計算タイム、木曜日の読書タイム(読み聞かせ)、金曜日の音読タイムを全校一斉に実施する。
- ・ 各学年の実態を踏まえ、基礎的な問題やアシストシートなどの問題を計算タイムに行い、基礎・基本の徹底を図る。
- ・ 授業の中に、ペアや小グループでの話し合い活動を効果的に取り入れるなどの授業改善を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 学校通信などで学習時間、学習内容、学習方法について、児童及び保護者の方への啓発を行う。
- ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用した自主学習を推進するとともに、自学ノートを作成し、自宅での復習などに取り組ませる。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果の概要や、課題や取組等を学校だより、学校HPで周知する。